

木崎中だより

2号

平成30年5月2日（水）
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

心を潤し、心を耕す「あいさつ」

校長 大谷 慎也

「目には青葉 山ほととぎす 初がつお」 この俳句は、江戸時代の俳人山口素堂の作品です。季語が3つもあり、何と贅沢な句でしょうか。視覚・聴覚・味覚と季節の喜びをさまざまに体感していることがうかがえます。いよいよ5月、若葉の美しい季節となりました。晴れの日には陽の光が反射し目にまぶしく、また、雨の日には緑の彩りを一層鮮やかにします。天候によって映る風景が異なりますが、人々が美しいと感じることには変わりありません。

さて、新年度が始まり、1か月が経とうとしています。緊張感がほぐれるとともに疲れも出てくるころです。特に、1年生は部活動も本入部となり、中学校の日課で生活し、帰宅後は夕食前にうとうとしてしまうこともあるでしょう。しかし、5月は、各学年相応の生活リズムに改善し、生活習慣の向上を図る大事な時期です。十分な睡眠を心がけ、気持ちよく目覚める。家族と「おはようございます。」のあいさつを交わす。そして、しっかりと朝ごはんを食べ、元気よく「行ってきます。」と声を出し、家をでる。登校途中にご近所の方や見守りをしてくださる地域の方にあいさつをする。そうすれば、学校でも自然に「さわやかなあいさつ」が交わせます。一日の始まりに、家庭でも地域でも学校でも「さわやかなあいさつ」が交われば、友だちや先輩・後輩、先生や職員と充実した学校生活を過ごして「さようなら。また、明日。」と言葉を交わし、一人ひとりが温かい気持ちで家庭に帰ることができます。

朝、私が出勤すると、ある部活動の部員達が、一斉に「おはようございます。」と迎えてくれます。以前は、声を掛けても、「おはようございます。」が返ってこないこともあったのですが、今は体をこちらに向けてしっかりと元気よく私に声を掛けてくれています。何ともさわやかに一日が始まります。雨の日には、部員達はいません。しかしながら、雨の降っていない朝の光景を想像させられ、雨の日の若葉のごとくますますそのすがすがしさが強く感じられます。

保護者、地域の皆様、どうか本校生徒に声掛けをお願いいたします。中学生という多感な時期、常に「さわやかなあいさつ」を交わせるとは限りません。しかし、皆様の一声が生徒の心を耕し、潤します。学校では、教職員一同、一人ひとりの生徒に手をかけ、目をかけ、時間をかけて、豊かな心をはぐくんでまいります。ぜひ、御協力をお願いいたします。